



災害時、大分市が警戒レベル3発令したら

災害時に設置されるペット同伴（同室）避難場所＝大分市横瀬小



【大分】大分市は、災害時に飼い主とペットが同じ部屋で避難生活を送れる「ペット同伴（同室）避難場所」を、市内横瀬の横瀬小に設置した。市が警戒レベル3「高齢者等避難」の発令をした際に開設し、ペットがいることを理由とした避難遅れや車中泊による健康被害を防ぐ。

ペット同伴避難 横瀬小に

餌、ケージなど持参を

過去の災害では、ペットを屋外や別室で管理する「同行避難」が一般的だった。離れる不安を抱く飼い主が避難所に移ることを控え、倒壊の恐れがある自宅にとどまったり、車中泊をしたりして体調を崩す事例があった。

横瀬小は、市内廻栖野のおおいた動物愛護センター

に近く、必要に応じて獣医師らを派遣しやすい。ペットアレルギーの対策として、一般の避難場所となる体育館とは別に、北校舎2階にある使用頻度の低い教室を使う。室内にはエアコンもある。

受け入れるのは、屋内で飼われている犬や猫、ウサギ、小鳥など。原則として持参したケージ内で過ごす。避難時には餌や水、排せつ物の処理用具などの持参が必須。飼い主同士で清掃や管理を行う「共助」を前提にしている。

7月下旬に実施したシミュレーションでは、教室の床にビニールシートを敷き詰め、板と段ボールで仕切りを設けるなど、汚れやにおい移りを防ぐ設営手順を確認した。

市保健所衛生課の佐藤満課長は「ペットを理由に逃げ遅れる人をなくしたい。一般の避難者と共存するため、飼い主の助け合いとルールの順守をお願いしたい」と話した。

教室の入り口にある受付



(原田宏一)



〔問①〕記事の中から答えを見つけて（ ）の中に書きましょう。

大分市は、災害時に警戒レベル3（「 **高齢者等避難** 」）を発令した際、横瀬小学校にペットと飼い主が同じ部屋で過ごせる「ペット同伴(同室)避難場所」を設置した。これは、ペットを理由とした避難遅れや（ **車中泊** ）による健康被害を防ぐ目的がある。過去の災害では、屋外や別室で管理する（「 **同行避難** 」）が一般的だった。今回の運用で受け入れられるペットは屋内で飼われている犬や猫、（ **ウサギ** ）、小鳥などを対象としている。

〔問②〕横瀬小学校がペット同伴の避難場所として適している理由を、記事に書かれている施設的环境やその特徴を挙げて説明してみましょう。

近くに動物愛護センターがあり、ペットに異常があった場合、獣医師らをすぐに派遣しやすい。

避難者にはペットアレルギーや動物が苦手な人がいる可能性もある。そうした場合に体育館から離れており、エアコンのある使用頻度が低い教室でペットと共に過ごすことができる。

〔問③〕このように前もってペット同伴避難の環境を整えることは、「発生時の救命」と「避難生活」にどのような影響があると考えられますか。

事前にペットと共に避難できる仕組みが整っている事で、災害時にペットを飼う住民が迅速に避難所への移動を判断することができ、逃げ遅れの可能性を減らすことにつながる。

アレルギーへの対策や施設の利用時のルールを決めておくことで、ペットを連れた飼い主が避難所に移った後、他の避難者との共存の際に混乱状態となりトラブルが起きるリスクを避けることができる。